

福井市役所



医療・福祉・教育・子育てなど様々な分野で、住民の生活に必要なサービスを提供しています。

“市民・地域・企業のすべてが輝ける魅力的で住みよいまちづくりを”

福井市役所では、「みんなが輝く全国に誇れるふくい」という都市像の実現に向けた様々な取り組みを行っています。「誰もが住み続けたい」「住んでみたい」と思える、さらに魅力あふれるまちを目指し、市民・地域・企業のすべてが輝けるまちづくりを行います。「快適に暮らすまち」「住みよいまち」「活き活きと働くまち」「学び成長するまち」を掲げ、医療・福祉・教育・子育てなど様々な事業を展開しながら、市役所は「市民の役に立つ所」として、地域貢献に取り組んでいます。

理想の都市像実現のため、福井市を想い、自ら考え挑戦し、市民に「幸

せ」を届ける職員像を目標とし、あらゆる分野で職員が一丸となって業務に取り組んでいます。入庁後は各段階に応じた「階層別研修」、中堅職員による指導・助言を受ける「ジョブコーチ制度」、1所属3年を基本とする職場異動で様々な経験を積む「ジョブローテーション制度」など、若手職員に対する人材育成制度が充実しています。職員それぞれの個性を生かしつつ、多方面から地域をよりよくするアプローチを行っています。

Q&A

管理職の方

Q.福井市役所のPRポイントについて教えてください。

A. 市役所は、市民の方のお困りごとなどを一番身近に知ることができ、丁寧に対応することで、市民の方に喜んで頂くことができます。この喜びを共感できるのは基礎自治体ならではの強みです。市民のより良い暮らしのために働きたいと思っている方は、ぜひ、一緒に頑張りましょう!!

Q.福井市役所では、どのような人材を求めていますか？

A. 憲法第十五条により「すべて公務員は全体の奉仕者であって一部の奉仕者ではない」とされています。そのため、まず倫理観と使命感を持っていることは絶対条件です。市民に直接対応するためホスピタリティのある人、そして、福井市の明るい未来を作っていくという情熱のある人を求めています。

Q.どんな時にやりがいを感じますか？

A. 自分が立案したイベントで、来館者から直接「よかったよ」と声をいただけることです。現在、歴史ある重要文化財を担当していますが、若手にも責任ある仕事を任せてもらえるのは市役所だからこさだと思いますし、モチベーションの向上につながっています。

Q.お仕事をされる上で大変なことはありますか？

A. 新型コロナウイルスの影響で、養浩館庭園の入園数が激減してしまいました。県外への移動自粛が強いられる今日、地域の人に、地元で伝わる歴史の魅力を知ってもらうことが大事な仕事になってくると考えます。そのため現在、小規模イベント立案・実現に奔走しています。

Q.異動によって、新たに仕事を覚えることの大変さについて、どう考えていますか？

A. 福井市役所では、基本的に約3年で異動があります。異動があることで様々なことを勉強でき、リフレッシュして働けると前向きに捉えています。色々な方向で地域貢献したいと入庁を志した私には合っていると感じます。

Q.普段お仕事をされる上で、心掛けていることはありますか？

A. 異動の際、自分の業務を次の人にスムーズに引き継ぐため資料を整えておくことも大切な仕事です。引き継ぎは、最も重要な業務のひとつです。また、条例や規則に立ち返って準備を進めることの重要性を実感しています。

若手社員

若手社員からのメッセージ



商工労働部 観光文化局 文化振興課
川崎 悠華さん

関西の大学を卒業後、福井市役所に入庁。
入庁2年目。

現在、養浩館庭園の保存・活用・魅力発信や、昨年度認定された「日本遺産」に関する業務を担当しています。地元で貢献していることを最も実感できるのは福井市役所だと思います。私も日々、災害や除雪などの対応も含め、人のため、福井のために働いていると実感しています。地元の人のために働きたいという思いを持っている方は、福井市役所を選択肢の一つにしていただければ嬉しいです。

< 1日の流れ >

8:10	出勤
8:30	朝礼
8:35	メール確認、返信
9:00	関係団体との打合せ
12:00	昼食
13:00	メール確認、返信
13:15	書類作成
14:00	養浩館庭園でイベント準備
16:00	報告書作成 課内打合せ
17:15	終業

取材したい



河合 萌恵子さんの
取材後記

川崎さんには、終始穏やかな表情で取材にご対応いただき、画面越しにそのお人柄や職場の雰囲気が伝わってきました。取材中、何度も登場した「養浩館のため」というフレーズからは、現在担当されているお仕事への熱意と誇りを感じました。